

語呂合わせ

歴史上の年号を慣用句、川柳、今様、流行り言葉などになぞらえて覚えることがよくある。最も馴染まれているのは、受験生が正しい年号を暗記する時に使う語呂合わせだろう。平安時代幕開けの 794 年を「ナクヨ うぐいす平安京」と符丁を合わせたり、鎌倉幕府が開かれた 1192 年を「イクニ造ろう 鎌倉幕府」と言ってみたり、 $\sqrt{5}=2.2360679$ を「富士山麓オウム 鳴ク」と呪文を唱えたり、受験ブームによる相乗効果とも相俟って、知的語呂合わせは全国津々浦々でその知名度を高め、受験生の間でこれらの語呂合わせを知らない生徒はまずいない。

外国人の故事を知っていて重宝なのは、何と云ってもイギリスの劇作家ウィリアム・シェークスピアに関するエピソードである。漢字で「沙翁」と称されるシェークスピアは、1564 年に生まれ、1616 年に亡くなった。「ヒトゴロシ」が減ったエリザベス I 世時代に生れ、「イロイロ」あつて亡くなった。しかも誕生日と命日が同じ 4 月 23 日という偶然も重なった。だが、この誕生日には数々の謎がある。洗礼を受けたのが 26 日で、生れたのはその 3 日ほど前だろうと後世の歴史家が言ったことから 23 日が誕生日になったとか、また 23 日が聖人ゲオルギウスの日に当たっていたからだとも言われている。

以前ストラットフォード・アポン・エイヴオンのシェークスピア生家近くにあるシェークスピア博物館のスタッフに、この語呂合わせについて不躰に話しかけてみたところ、外国人で彼の記念日や生涯をそこまで詳細に知っている人は初めてだと目をパチクリされ、興味を抱かれたことがある。

彼の姓のスペル 'Shakespeare' の語尾に 'e' が付いているのもミソで、つい 'e' を落丁した受験生を口惜しがらせている。いかにもシェークスピアらしく、ユニークなエピソードに事欠かない。

ごく最近シェークスピアの 4 大悲劇のひとつ、「オセロ」を名乗っていた女性タレントが、家賃滞納で訴えられメディアに格好の話題を提供したが、泉下のシェークスピアも稀代の名作「オセロ」がかくもスキャンダラスな「オセロ」として脚光を浴びるようになろうとは、正に想定外だったに違いない。

余談だが、2012 年度わが国の一般会計予算は 90 兆 3339 億円である。この予算額は絶対忘れない。なぜなら語呂合わせではなく、ズバリ私の携帯電話番号 090-3339-XXXX だからである。

(近藤 節夫)